

高速道路計画史研究に関するレビュー

小澤 広直¹・佐々木 葉²

¹正会員 早稲田大学助手 創造理工学部社会環境工学科 (〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1)

E-mail: hironaokozawa@aoni.waseda.jp (Corresponding Author)

²フェロー会員 早稲田大学教授 創造理工学部社会環境工学科 (〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1)

E-mail: yoh@waseda.jp

近年の土木史の研究分野においては、戦後土木史研究が一つのトピックとなっている。本稿では、戦後のインフラストラクチャーの一つである高速道路に着目し、土木学会論文集を中心とする学術論文を対象として、高速道路計画史に関する国内の既往研究のレビューを行い、研究の動向を把握した。

Key Words: *Historical Studies on Expressway Planning, Historical Studies in Civil Engineering after World War II, Research Review*

1. はじめに

近年の土木史の研究分野においては、2014(平成26)年度から土木学会と文化庁の共同体制にて、第2次世界大戦以後に建設されたインフラストラクチャーを文化財として評価するための基礎的調査が開始されている¹⁾など、「戦後土木史研究」が一つのトピックとなっており、研究の進展が期待されている。また前述の基礎的調査を契機として、筆者らはこれまでに首都高速道路を対象に調査や研究を実施している^{2,3)}。

本稿では、戦後に建設されたインフラストラクチャーの一つである高速道路に着目し、高速道路の計画・設計に関する歴史的研究(以下、高速道路計画史研究)を対象とした国内の既往研究レビューを行い、研究の対象や方法、内容など研究動向を把握することを目的とする。

土木史分野及び関連分野における既往研究についてレビューした論文として、柴田ら^{4,5,6)}による景観研究の系譜に関するもの、塚井ら⁷⁾による土木計画学の研究トピックスの変遷に関するもの、都築ら⁸⁾による都市計画研究の変遷に関するものなどがあるが、管見の限りでは高速道路計画史研究に関するレビュー論文は見られない。

2. 高速道路計画史研究の動向把握

(1) レビュー対象論文

本稿におけるレビュー対象論文は、2021年4月時点で国内の関連学会が発刊している論文集に掲載されている

学術論文とする(表-1)。

選定方法は、1) 審査付き論文については、J-Stageのキーワード検索を用いて「高速道路」と検索して表示された論文、2) 審査なし論文については、論文公開ページ^{9,10)}、講演集冊子¹¹⁾、CD-ROM¹²⁾に収録されている論文を対象として、目次閲覧および本文参照による抽出とした。その結果、34編の論文が抽出された(付録参照)。論文本数の推移を図-1に示す。

なお本稿においては、路線計画の歴史的経緯、具体の構造物の設計・デザインのプロセスなどについて、歴史的観点に基づく整理や分析を行った論文を対象としてレビューすることとした。したがって、検索過程において多くヒットした、事業主体(日本道路公団など)による工事報告や技術開発、国の道路政策、交通現象の分析・予測などに関する論文は、レビューの対象外とした。

(2) 研究の変遷の整理と動向の把握

まず初めに、高速道路計画史に関する研究の全体的な変遷を整理し(図-1)、その動向を把握する。これ以降本文中でレビュー対象論文を引用する場合は、付録記載のレビュー論文の番号(No.)を[]で囲い、上付き文字で示す。

a) 論文本数の推移と審査の有無

34編を時系列で並べると(図-1上段)、1982(昭和57)年から2021(令和3)年の40年間に集約されている。年間あたりの論文本数については、発行本数が多い年でも3編である。また1編も執筆されない年が計17年間存在したことが把握でき、高速道路計画史に関する研究の蓄積が十分でないことが推察される。なお審査の有無の内訳

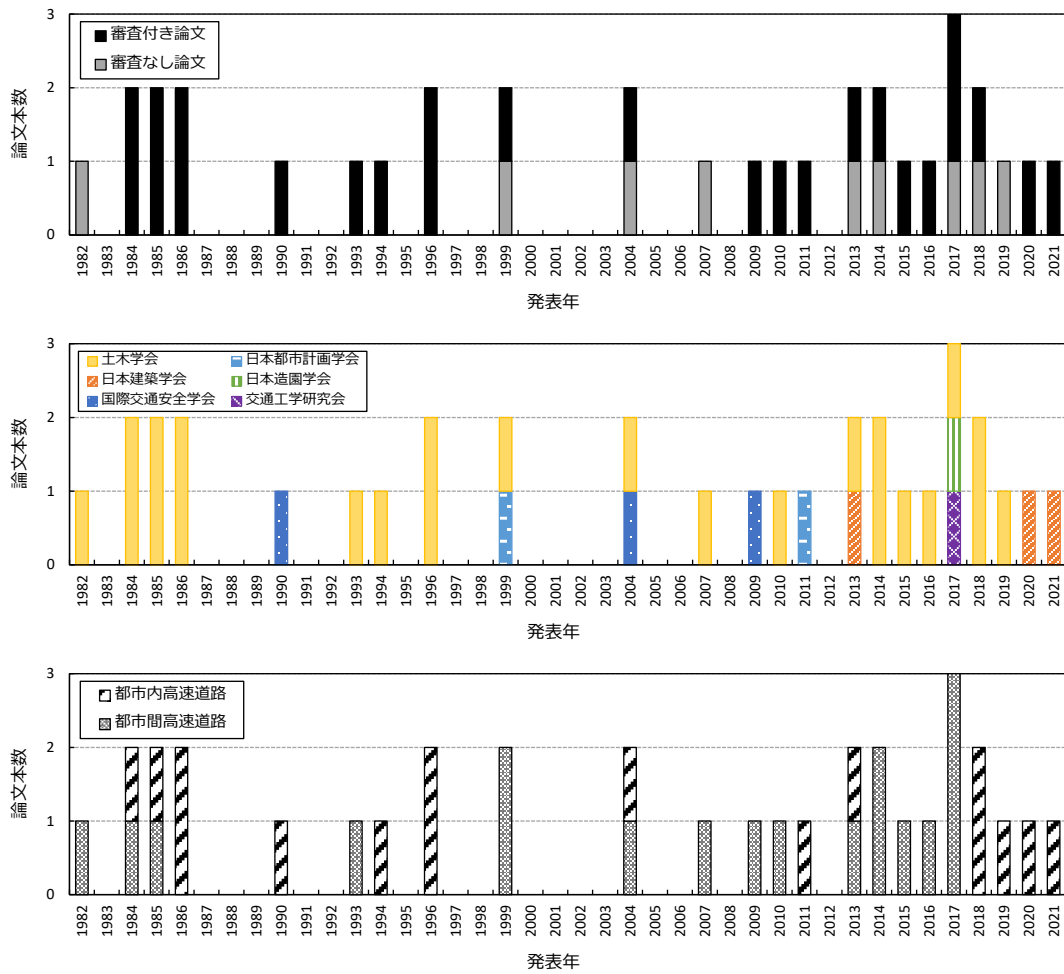


図-1 論文本数の推移（上段：審査有無別，中段：学会別，下段：研究対象別）

表-1 レビュー対象の論文集

学会名	論文集名
土木学会	土木学会論文集 D (2006-2010)
	土木学会論文集 D1, D2, D3, G (2011-2021)
	景観・デザイン研究論文集 (2006-2010)
	日本土木史研究発表会論文集 (1981-1989)
	土木史研究 (1990-2002)
	土木史研究論文集 (2003-2010)
	土木計画学研究・論文集 (1984-2010)
	環境システム研究論文集 (1988-2010)
	※景観・デザイン研究講演集 (2005-2020)
	※土木史研究講演集 (2003-2020)
※土木計画学研究・講演集 (1979-2019)	
日本都市計画学会	都市計画論文集 (1966-2020)
日本建築学会	日本建築学会論文報告集 (1956-1984)
	日本建築学会計画系論文報告集 (1985-1993)
	日本建築学会計画系論文集 (1994-2021)
日本造園学会	造園雑誌 (1934-1993)
	ランドスケープ研究 (1994-2020)
	ランドスケープ研究(オンライン論文集) (2008-2020)
国際交通安全学会	国際交通安全学会誌 (1975-2020)
交通工学研究会	交通工学論文集 (2015-2021)

注：原則として審査付き論文であり，※印のみ審査なし論文を示す。
論文集名の後部の () は各論文集の収録年を表している。

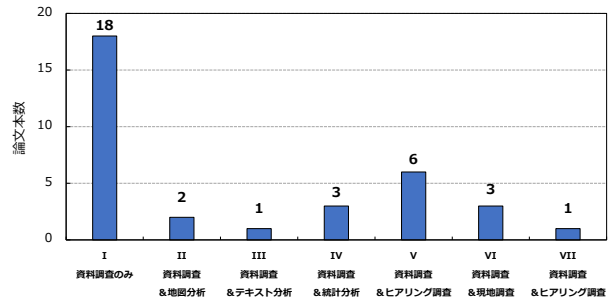


図-2 研究方法別の論文本数

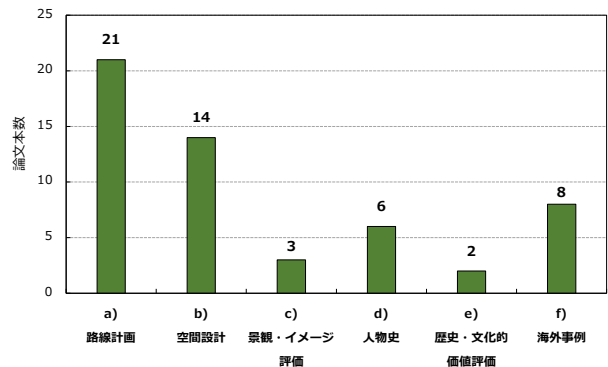


図-3 研究内容別の論文本数(1編に対するカテゴリー複数選択あり)

は、審査付き論文は 25 編、審査なし論文は 9 編となっている。

b) 論文集の種類

論文集の種類については(図-1 中段)、土木学会が最も多く(24 編)、そのあとに日本建築学会と国際交通安全学会が続く(ともに 3 編)。各学会の論文集の種類数や期間が異なることから、論文集別の本数の差異からの推察は難しいが、収録論文のテーマとして都市計画史を含む¹³⁾都市計画論文集がわずか 2 編のみの収録となっている点は意外な特徴である。

c) 研究対象について

研究対象が都市内高速道路であるか都市間高速道路であるか、の 2 種類に大別して集計したところ(図-1 下段)、都市内高速道路を対象とする論文は計 16 編、都市間高速道路を対象とする論文は計 18 編となり、差はほとんどない。その一方で、都市間高速道路を対象とする 18 編は国内の様々な路線を対象としているのに対し、都市内高速道路を対象とする 16 編は、そのうち 13 編が首都高速道路(東京高速道路株式会社線を含む¹²⁾)を主な対象としており、研究対象の偏りが見られる。

(3) 研究方法について

研究方法については、Ⅰ：資料調査のみ、Ⅱ：資料調査&地図分析、Ⅲ：資料調査&テキスト分析、Ⅳ：資料調査&統計分析、Ⅴ：資料調査&ヒアリング調査、Ⅵ：資料調査&現地調査、Ⅶ：資料調査&ヒアリング調査&現地調査、の 7 つのカテゴリーに分けることができ、それぞれの論文本数を集計したところ、図-2 に示すような結果となった。

歴史的研究であるため、すべての論文において資料調査に基づく史実の整理・分析を基礎としている。また約半数の 16 編については、資料調査とその他の調査を組み合わせている。例えば、事実確認のため、建設に関与したエンジニアや自治体などにヒアリング調査を実施している論文^{例えは 20, 26, 34}や、現存する構造物・施設に関する現地調査を実施している論文^{例えは 25, 32}などが見られる。その他に地図分析^{31, 41}、テキスト分析¹²、統計分析^{17, 18, 27}と組み合わせた論文が数編ずつ見受けられる。

(4) 研究内容について

研究の内容については、a) 路線計画、b) 空間設計(構造物設計も含む)、c) 景観・イメージ評価、d) 人物史、e) 歴史・文化的価値評価、f) 海外事例、の 6 つのカテゴリーに分けることができ、1 編に対するカテゴリーの複数選択をゆるして集計したところ(図-3)、a) 路線計画に関するものが最も多く(21 編)、次いで b) 空間設計に関するものが多い(14 編)ことが把握できる。以下、各カテゴリーの代表的な研究について言及する。

a) 路線計画

高速道路の路線計画については、原則として資料調査に基づいて初期の構想段階から最終的な実施計画に至るまでの経緯を詳述しているものが多い。用いている資料の種類としては、事業主体内の会議録^{例えは 10, 11, 31}など、計画立案に向けた各種調査研究報告書^{例えは 11}など、公刊されている雑誌等に発表された論考^{例えは 5}など、行政機関が発行したマスタープラン^{例えは 9, 22}などが挙げられる。

一方で、地図分析によって高速道路と古代七道駅路の路線位置の類似性を提示した武部らの論文^{31, 41}や、路線延長や交通量データなどの数値データから計画思想を探ろうとする家田らの論文^{17, 27}など、資料調査以外の方法も併用して路線計画の思想を考察する論文も見られる。

b) 空間設計

高速道路の空間設計(構造物設計を含む)については、a) 路線計画と合わせて言及されていることが多い。用いている資料の種類としては、a) 路線計画で示した資料のほか、事業主体内の設計要領²⁹がある。また関係者へのヒアリングから、具体の構造物の設計に関する内容を得ている論文^{例えは 20, 33}などもある。言及されている構造物・施設としては、橋梁¹⁶、高速道路と他の都市施設の一体設計構造物^{20, 30}、サービスエリア²⁹などであるが、実在の構造物・施設を現地調査にて確認しやすいためか、都市内高速道路を対象とする論文が多い。

c) 景観・イメージ評価

高速道路の景観・イメージ評価の変遷などを追った論文としては、篠原ら²¹による首都高速道路の供用以後の景観評価の変遷と傾向について新聞記事や建設系雑誌のテキストをもとに分析した論文、神村ら¹²による首都高速道路の設計思想と市民の持つイメージを時系列的に比較した論文、佐々木¹⁵による首都高速道路と阪神高速道路における事業主体内の景観検討の経緯を示した論文、の 3 編があてはまり、これらはいずれも都市内高速道路を対象としている。その一方で、都市間高速道路を対象としたこのカテゴリーの論文は抽出されなかった。

d) 人物史

高速道路の建設という大規模なプロジェクトを実施するに当たっては、多数のエンジニアが関与することや特定人物の設計思想のみが反映されるわけではないことから、人物史としての研究対象を絞りにくく、知見の蓄積が少ない。そのような中、既往研究においては、事業推進の中心人物となったエンジニアに着目した研究^{19, 24, 26}や、事業主体内の組織体制や外部有識者を含む検討委員会に着目した研究^{25, 33}などが行われている。

e) 歴史・文化的価値評価

2014(平成 26)年度から実施されている「土木史委員会戦後土木施設の歴史・文化的価値に関する調査小委員会(以下、小委員会)」における基礎的調査の成果として、

都市間高速道路²⁸⁾、都市内高速道路(首都高速道路)²⁹⁾に関する歴史・文化的価値について検討した論文がある。いずれも資料調査をもとに、戦後土木施設として評価しうる構造物・施設を抽出し、その特徴を述べた上で、評価の視点について検討している。小委員会による調査・検討は2021(令和3)年現在も継続されており、都市間高速道路、都市内高速道路ともに引き続き調査対象となっているため、今後の進展が期待される。

f) 海外事例

海外の高速道路計画を扱っている論文が複数あり、その対象地はフランス⁶⁾、アメリカ⁶⁾、韓国²⁾、満州²⁴⁾となっている。これらの論文の多くは、各地に建設された、または建設予定の高速道路計画の策定経緯や構造物・施設の設計の特徴などを、資料調査に基づいて丁寧に記述している。一方で、篠原・天野⁶⁾は、東京、大阪、ニューヨーク、パリの都市内高速道路を対象として、資料調査に基づいて構造物・施設の景観設計思想の比較を試みている。この論文は、本稿のレビュー対象論文の中で、国内外の具体的な事例を比較した唯一の論文である。

(5) 特徴ある論文について

以上、高速道路計画史研究に関する論文のレビューから、本数の変遷、対象、方法、内容についてその動向を把握した。本節では、レビューの過程で、筆者が興味深く感じた論文について、いくつか紹介する。

a) 古代の七道駅路と昭和の高速道路を比較した研究

武部¹⁾は、日本の幹線道路網の形成過程について、「古代の七道駅路時代」「江戸期の五街道時代」「明治期の国道時代」「昭和後期の高速道路時代」の4期に分けた上で、「七道駅路」と「高速道路」を地図上で重ね合わせて比較することで、路線延長、路線網構成、路線通過位置、駅とインターチェンジの配置がおおよそ一致することを示している。また同じく武部らの継続研究⁴⁾では、具体のケーススタディーとして、九州横断自動車道の佐賀平野付近に着目し、先行研究で示した七道駅路と高速道路の類似性を検証している。

b) 量的データから計画の思想や実態を把握した研究

帆足・家田²⁷⁾は、高速道路におけるインターチェンジ(以下、IC)の設置間隔の時代的変遷について、国土交通省の国土数値情報データをはじめとした量的データを用いた統計分析により、概ね一貫した考え方によって整備されてきた実態を明らかにしている。また分析結果と各時代のIC整備制度の内容と対照させ、制度の効果について考察している。

c) 事業主体の企画調整の役割に着目した研究

田口²³⁾は、首都高速道路を横浜市中心部に延伸する際の計画経緯について、キーマンであった田村明を中心と

した、横浜市の都市デザインの要である企画調整室の動きに着目して明らかにしている。この論文の直接の目的は、横浜市企画調整室が担った役割を明らかにすることにあるが、田村や当時の横浜市長であった飛鳥田の動きを中心に、具体的計画案の変遷や建設省との交渉過程が詳述され、歴史的研究として内容に厚みのある論文となっている。

3. 終わりに

本稿では、戦後のインフラストラクチャーの一つである高速道路に着目し、高速道路計画史に関する国内の既往研究のレビューを行い、研究の動向を把握した。

最後に、筆者が考えている、今後の高速道路計画史研究における研究アプローチについて、以下に示しておく。

(1) アプローチ1: 時間的重層性に着目した地図分析

レビュー対象論文では、武部らの研究¹⁾の他に、複数時点の地図を用いた分析を行ったものは見られなかったが、このような地図分析によって、現在の風景には直接現れにくい、潜在的な特質を浮かび上がらせることができる。英国では、類似の地図分析手法として、景観の「時間的奥行き(Time Depth)」を抽出する歴史的景観キャラクターライゼーション(HLC: Historical Landscape Characterization)が確立され、景観アセスメントの一つの手法となっている¹⁴⁾。国内の景観研究分野においても、宮脇らによる一連の研究^{例えは 15)、16)}をはじめとして、高野ら¹⁷⁾や土田ら¹⁸⁾によるSpace Syntax理論と組み合わせた研究などがあり、研究手法として根付きつつある。

今後の高速道路計画史研究においては、例えば「実際の路線計画や構造物設計の思想」と「建設地点の地形や周辺環境」との関係性を、複数時点の地図を重ね合わせて、分析・考察することができるのではないだろうか。

(2) アプローチ2: 量的データを用いた統計分析

家田は、2.(5) b)で示した論文の他に、東京の地下鉄路線計画に対しても同様に、「土木史上で計画思想を客観的な(科学的検証および批判が可能な形で)分析する方法の一つ」として駅間距離や乗降人員比などを変数とした計量的な分析モデルを提案し、計画思想の解明を試みている¹⁹⁾。

関連資料の記述などの質的データを用いることが多い歴史的研究においては、国土交通省などから公表されている量的データを用いた統計分析を組み合わせることで、計画の思想や実態を明らかにしていくことで、歴史的研究の客観性がより高まるのではないだろうか。

(3) アプローチ3: 組織スケールでの動きに着目した人物史

2.(4)d)でも述べたように、高速道路建設という大規模プロジェクトであるがゆえに、特定の人物に絞ることは難しく、戦後のインフラストラクチャー整備に携わった人物に関する歴史的研究は少ない。例えば、筆者らが対象とする首都高速道路計画史においても、特定の人物一人に焦点を当てた論文は、首都高速道路建設の立役者である山田正男の計画思想の源流を追った古川の博士論文²⁰⁾、首都高速道路の初の公式計画の立案責任者であった町田保に関する拙稿²⁰⁾などに限られる。

一方で、2.(5)c)で示した田口の論文¹⁹⁾や、橋本による名神高速道路の審美委員会に関する論文²¹⁾などが既往研究としてあるように、プロジェクト推進のキーマンとなる人物を中心とした組織スケールでの動きを丁寧に見ていくことはできるのではないだろうか。

補注

(注1) 法令上は「都市高速道路」が正式名称であるが、本稿では、都市間高速道路との区別が明確になるように、あえて「都市内高速道路」と表記する。

(注2) 東京高速道路株式会社線は、銀座周辺の外濠、汐留川、京橋川を埋め立てて建設された、供用総延長約2kmの道路運送法に基づく一般自動車道である。建設当時から現在まで事業主体は東京高速道路株式会社であるが、首都高速道路のネットワークの一部を構成している。

参考文献

- 1) 阿部貴弘：戦後土木施設の歴史・文化的価値に関する調査，土木学会誌，Vol.101，No.4，pp.30-33，2016.
- 2) 佐々木葉，小澤広直：戦後土木施設としての首都高速道路の特質に関する一考察，土木史研究講演集，Vol.38，pp.209-214，2018.
- 3) 小澤広直，佐々木葉：首都高速道路の路線網計画および構造物設計の思想と手法に関する通史的考察，土木史研究講演集，Vol.39，pp.69-80，2019.
- 4) 柴田久，土肥真人：目的別研究系譜図からみた景観論の変遷に関する一考察，土木学会論文集，No.674，IV-51，pp.99-111，2001.
- 5) 柴田久，石橋知也：目的別系譜図にみる景観研究の動向—98年から07年を対象として—，景観・デザイン研究論文集，No.7，pp.121-132，2009.
- 6) 柴田久，齋藤勝弘，池田隆太郎：目的別系譜図にみる景観研究の動向—08年から17年を対象として—，土木学会論文集 D1 (景観・デザイン)，Vol.76，No.1，

- pp.30-43，2020.
- 7) 塚井誠人，原祐輔，山口敬太，大西正光：土木計画学の研究トピックスの変遷，土木学会論文集 D3 (土木計画学)，Vol.74，No.5，pp.I_349-I_358，2018.
- 8) 都築早織，片山茜，谷口守：キーワードからみた都市計画研究の変遷，都市計画論文集，Vol.52，No.3，pp.329-335，2017.
- 9) 土木学会：土木学会学術論文等公開ページ，URL：<http://www.jsce.or.jp/library/open/index.html> (2021.04.17 最終閲覧).
- 10) 国際交通安全学会：国際交通安全学会誌 IATSS Review，URL：<https://www.iatss.or.jp/publication/iatss-review/> (2021.04.17 最終閲覧).
- 11) 土木学会土木史委員会：土木史研究講演集，Vol.40，2020.
- 12) 土木学会景観・デザイン委員会：景観・デザイン研究講演集 (CD-ROM)，No.16，2020.
- 13) 日本都市計画学会：分類番号・分類テーマ，URL：<https://www.cpij.or.jp/com/ac/upload/file/field.pdf> (2021.04.17 最終閲覧).
- 14) 宮脇勝：連載 欧州のランドスケープ・プランニングとプロジェクト 第6回 ランドスケープの歴史文化の活用—イギリスの歴史的ランドスケープ・キャラクターライゼーション HLC の手法—，LANDSCAPE DESIGN，No.83，pp.86-91，2012.
- 15) 宮脇勝：歴史的景観キャラクターライゼーションに関する研究—鎌倉市中心部の寺社・道路・街区・水路・土地利用の歴史的景観特性アセスメント—，都市計画論文集，Vol.47，No.3，pp.607-612，2012.
- 16) 宮脇勝，唐圻亮：中国上海市における外国人居留地の歴史的景観キャラクターライゼーションに関する研究—イギリス人居留地を対象として—，都市計画論文集，Vol.49，No.1，pp.25-32，2014.
- 17) 高野裕作，佐々木葉：街路の形態的特性に基づく媒介中心性と形成年代との関係性に関する研究，土木学会論文集 D3 (土木計画学)，Vol.74，No.3，pp.183-192，2018.
- 18) 土田菜，佐々木葉：市街地の「空間的奥行の履歴」に着目した景観特性把握手法に関する研究，土木学会論文集 D1 (景観・デザイン)，Vol.76，No.1，pp.112-122，2020.
- 19) 家田仁，下大蘭浩：計量的モデルによる計画思想の史的解析，土木史研究，Vol.13，pp.501-515，1993.
- 20) 古川公毅：首都高速道路のネットワーク形成の歴史と計画思想に関する研究，東京大学博士論文，2008.
- 21) 小澤広直，佐々木葉：都市計画家 町田保の経歴と仕事，土木学会論文集 D2 (土木史)，Vol.77，No.1，2021(2021.04 登載決定済，2021.05 登載予定).

(Received April 19, 2021)

REVIEW OF HISTORICAL STUDIES ON EXPRESSWAY PLANNING

Hironao KOZAWA and Yoh SASAKI

付録 レビュー対象論文リスト

No.	著者	論文タイトル	雑誌情報	審査有無	対象	方法	内容
1	鹿島茂	中央高速道路建設の事後分析 - 東京・富士吉田間について -	土木計画学研究・講演集, No.4, pp.154-159, 1982	なし	都市間	V	a)
2	篠原修, 天野光一, 阪井清志	首都高速道路の経緯評価	日本土木史研究発表会論文集, Vol.4, pp.81-89, 1984	付き	都市内	I	c)
3	武部健一	日本幹線道路線の史的考察 - 特に七瀬駅と高尾道路 -	日本土木史研究発表会論文集, Vol.4, pp.91-98, 1984	付き	都市間	II	a)
4	武部健一, 甲斐連一	日本幹線道路線の史的考察 (その2)	日本土木史研究発表会論文集, Vol.5, pp.295-302, 1985	付き	都市間	II	a)
5	篠原修	首都高速道路の計画と設計思想	土木計画学研究・論文集, No.2, pp.37-44, 1985	付き	都市内	I	a), b)
6	篠原修, 天野光一	都市高速道路の発展設計思想の比較研究 - 東京, ニューヨーク, パリ, を対象に -	土木計画学研究・論文集, No.3, pp.89-96, 1986	付き	都市内	I	b), f)
7	天野光一	パリの環状道路の環境設計に関する一考察	日本土木史研究発表会論文集, Vol.6, pp.110-114, 1986	付き	都市内	I	b), f)
8	小林健	フランスにおける地下環状高速道路計画	国際交通安全学会誌, Vol.16, No.1, pp.31-37, 1990	付き	都市内	I	a), b), f)
9	石川幹子	アメリカ合衆国におけるパークウェイの成立に関する研究	土木史研究, Vol.13, pp.105-120, 1993	付き	都市間	I	a), f)
10	堀江興	戦後の東京の民間会社による外環高速道路建設経緯	土木史研究, Vol.14, pp.31-44, 1994	付き	都市内	I	a), b)
11	堀江興	東京の高速道路計画の成立経緯	土木計画学研究・論文集, No.13, pp.1-22, 1996	付き	都市内	I	a), b)
12	神村崇宏, 岡田昌彰, 仲間浩一	首都高速道路のイメージ変遷に関する研究	環境システム研究, Vol.24, pp.186-193, 1996	付き	都市内	III	b), c)
13	堀江興	東京都高速道路外郭環状線計画構想から決定に至るまでの経緯の研究 - とりわけ都市計画審議会等の審議を中心として -	都市計画論文集, Vol.34, pp.193-198, 1999	付き	都市間	I	a)
14	堀江興	東京外郭環状道路のうち、練馬区地域の住民対策に関する研究 - 都市計画変更および環境影響評価手続きについて -	土木計画学研究・講演集, No.22(2), pp.463-466, 1999	なし	都市間	I	a)
15	佐々木葉	都市高速道路のイメージと景観	国際交通安全学会誌, Vol.28, No.4, pp.34-41, 2004	付き	都市内	I	b), c)
16	羽田野剛士, 近藤光男, 近藤明子	本州四国連絡橋神戸 - 鳴門ルート計画史 - 明石海峡大橋および大鳴門橋に関する道路形地橋と鉄道併用橋の計画の変遷 -	土木計画学研究・講演集, No.30, 論文番号 232, 2004	なし	都市間	I	a), b)
17	冨田仁, 下村大幸, 小野田恵一	高規格幹線道路の計画思想を語る - 区間橋工単位の分析 -	土木計画学研究・講演集, No.36, 論文番号 228, 2007	なし	都市間	IV	a)
18	門間 俊幸	山陰地方の高速道路の計画決定経緯と効果検証	国際交通安全学会誌, Vol.34, No.1, pp.15-25, 2009	付き	都市間	IV	a)
19	橋本政子, 齋藤洲	名神・東名高速道路におけるトイラン技術トロンクの設計思想に関する研究	景観・デザイン研究論文集, No.8, pp.41-49, 2010	付き	都市間	V	d)
20	齋本光市, 増井徹	船場センタービル建設に至る経緯とその計画思想に関する研究 - 基本構想 (案)・実施計画 (案) の分析を通じて -	都市計画論文集, Vol.46, No.3, pp.685-690, 2011	付き	都市内	V	b)
21	橋本政子	清洲園哈大道路に関する史的考察	土木史研究講演集, Vol.33, pp.341-348, 2013	なし	都市間	I	a), f)
22	朴光賢	1960-80年代のソウル都市基本計画における道路網について	日本建築学会計画系論文集, Vol.78, No.693, pp.2425-2432, 2013	付き	都市内	I	a), f)
23	橋本政子	清洲園哈大道路に関する史的考察	土木学会論文集 D2 (土木史), Vol.70, No.1, pp.43-52, 2014	付き	都市間	I	a), f)
24	橋本政子	道路技術者片平信貴の足跡とアーカイブズ	土木史研究講演集, Vol.34, pp.209-216, 2014	なし	都市間	V	d)
25	橋本政子	名神高速道路における初代総務課長三と審査委員会の美しい道路づくりへの取り組み	土木学会論文集 D1 (景観・デザイン), Vol.71, No.1, pp.108-115, 2015	付き	都市間	VII	d)
26	橋本政子	道路技術者片平信貴の足跡とアーカイブズ	土木学会論文集 D2 (土木史), Vol.72, No.1, pp.40-49, 2016	付き	都市間	V	d)
27	朝元元, 冨田仁	日本の高速道路におけるインターチェンジ設置間隔に関する分析的考察	交通工学論文集, Vol.3, No.4, pp.A-54-A-63, 2017	付き	都市間	IV	a)
28	橋本政子	戦後土木施設としての首都高速道路の歴史・文化的価値と評価に関する考察	土木史研究講演集, Vol.37, pp.137-140, 2017	なし	都市間	VI	b), e)
29	中尾信裕, 吉田忠司, 丹後淳, 堀澤	高速道路サービスエリア外部空間と外構要素に関する設計要素の流通に関する研究	ランドスケープ研究 (オンライン論文集), Vol.10, pp.184-193, 2017	付き	都市間	I	b)
30	佐々木葉, 小澤広直	戦後土木施設としての首都高速道路の経緯に関する一考察	土木史研究講演集, Vol.38, pp.209-214, 2018	なし	都市内	I	b), e)
31	石原成寿, 河村明, 高崎忠勝, 天口英雄	日本橋川における首都高速道路の橋断占用に至る計画検討経緯の研究	土木学会論文集 G (環境), Vol.74, No.5, pp.1-333-1-339, 2018	付き	都市内	I	a)
32	小澤広直, 佐々木葉	首都高速道路の路線設計計画および構造物設計の思想と手法に関する通史的考察	土木史研究講演集, Vol.39, pp.69-80, 2019	なし	都市内	VI	a), b)
33	田口俊夫	横浜市中心部における高速道路地下化事業にみる自治体企画調整室の役割	日本建築学会計画系論文集, Vol.86, No.769, pp.603-613, 2020	付き	都市内	V	a), d)
34	田口俊夫	ニューオーク都市内高速道路コアーマンハッタンエクスプレスウェイ計画でのリンゼイ市政による複合開発の取り組み	日本建築学会計画系論文集, Vol.86, No.780, pp.559-569, 2021	付き	都市内	VI	a), d), f)

※凡例 [方法] I : 資料調査のみ, II : 資料調査＆テキスト分析, III : 資料調査＆統計分析, IV : 資料調査＆統計分析, V : 資料調査＆ヒアリング調査, VI : 資料調査＆現地調査, VII : 資料調査＆ヒアリング調査&現地調査

[内容] a) 路線計画, b) 空間設計, c) 景観・イメージ評価, d) 人物史, e) 歴史・文化的価値評価, f) 海外事例